

令和3（2021）年4月市長臨時記者会見の概要と質疑応答

令和3（2021）年4月15日（木曜日）
午後5時～5時39分
柏崎市役所多目的室

1 発表事項

市内での新型コロナウイルス感染症患者（市内50例目）の発生について

（主管：防災・原子力課）

4月14日に、市内で新型コロナウイルス感染症患者が新たに1名確認されました。

市内50例目、柏崎市居住の30歳代会社員の男性です。4月13日に職場内で陽性者が判明したため、PCR検査を実施し、4月14日に陽性が判明しました。現在、症状は無症状です。

この方は、東京電力ホールディングス株式会社柏崎刈羽原子力発電所に勤務する東京電力の社員です。このことは、すでに東京電力から発表があったと承知しています。

本日、午後3時過ぎに東京電力柏崎刈羽原子力発電所の石井所長から市役所にお越しいただき、私どもの考え方を伝えました。今回の市内50例目の方は、柏崎刈羽原子力発電所サイト内のいわゆる特重施設事務所に勤務しています。この方を含めて、特重施設事務所に勤務する方では5人の陽性者が確認されています。感染された方々に罪はありませんし、お気の毒だと思いますが、この10日余りで、一つの勤務先の限られた場所で5人の陽性者が出たという状況は、私たちは重く受け止めざるを得ません。

感染ルートや濃厚接触者などの特定は新潟県が行っており、東京電力も調査に協力しているだろうと思いますが、東京電力サイト内でももう一度、当事者や関係者に事情を聞くなどして、この流れを止めてもらいたいと願っています。

今回の事案を含めて、市や県が東京電力サイト内に連絡していますが、なかなか連絡がつかなかったり、ずれがあったりという状況なので、もう少しスムーズに情報交換できるように改善していただきたいということも所長にお話ししました。

今回の特重施設の陽性者5人のうち、柏崎市が発表したのは3人で、4月7日公表の市内46例目、4月14日公表の市内49例目、本日公表した市内50例目です。市内46例目が特重施設で陽性が確認された1例目で、2例目は4月11日に他県から発表されました。この2人が特重施設で勤務していることが分かった段階で、東京電力に要請を行いました。要請の内容は「陽性者と接触のあった社員、関係業者などとそのご家族に対しての自宅待機と健康観察指示」と「陽性者が勤務する部署の所属社員全員、接触の可能性がある協力企業関係者への幅広いPCR検査の実施」の2点です。

4月11日に発表された2例目は他県に生活の根拠をお持ちなので、その県の保健所が濃厚接触者を特定します。東京電力からは、その県の保健所からPCR検査の対象者の連絡を受けており、市長が求めるような幅広いPCR検査の実施は求められていないという返事がありました。私は再度、2人の感染が続いた状況を考えて、行政検査ではなく自主検査として幅広くPCR検査を行ってもらいたいと伝えました。

その結果、濃厚接触者として行政検査を受ける方以外の特重施設で勤務する全員を対象に、4月13日、14日に自主検査としてPCR検査を実施したとのことです。今回の市内50例目は、この自主検査によるPCR検査で陽性が判明しました。

特重施設勤務の方であるということを発表することは、所長にもお伝えしています。

2 質疑応答

記者：本日、石井所長に伝えたポイントは、感染ルートなどの確認を保健所だけでなくサイト内でも取り組んでほしいということと、市や県との情報連携をスムーズに行えるようにしてほしいという2点でよいか。

市長：はい。あえて申し上げるならば、それに加えて、詳しいことは申し上げられませんが、社員が自主検査としてPCR検査の検体を持っていく際に緊張感に欠ける雰囲気が見受けられたという報告がありましたので、是正措置や処理水の処分の問題なども含めて、東京電力が非常に厳しい状況にあるという認識をもう一度一人一人に持っていただきたいとお伝えしました。

記者：検体を持っていくところというのは保健所か。

市長：医療機関です。

記者：東京電力の検査は東京電力サイト内の医療機関ではなく、サイト外の一般の医療機関でも検査を受けているということか。

市長：はい。東京電力が柏崎市内にあるPCR検査を行うことができる医療機関と提携して自主検査に臨んでいると承知しています。

記者：市長の要請に対して所長からはどのような回答があったのか。

市長：陽性となった5人や関係者を含めて、独自にもう一度どのような状況で発生したのかを確認するというお話をいただきました。意識に関しても、所長から所員に伝え、全員に意識の向上を求めていくということでした。連絡体制に関しては、お互い行き違いの部分もあるのかもしれないが、速やかな反応ができるようにあらためて連絡体制の確認をするという回答でした。

記者：連絡がスムーズにいかないという話があったが、具体的にどのようなことがあったのか。

市長：例えば、陽性者の勤務体制や市内に家族がいるのかなどの問い合わせをさせていただきましたが、なかなか担当者につながらなかったり、行き違いになったりという報告が上がっています。保健所と東京電力との連絡もスムーズにっていないという話も聞いていましたので、連絡体制をあらためて確認してほしいと申し上げました。

記者：PCR 検査の検体を持っていく際に緊張感に欠ける雰囲気が見受けられたという話があったが、詳しく伺いたい。

市長：私は直接見ていないので具体的には申し上げられませんが、緊張感に欠ける雰囲気があったという報告を受けています。

記者：昨年4月を思い出すと、市内1例目から5例目が東京電力関係で、市長は社長宛てにかなり厳しい内容の文書を発出した。1年前からあまり状況が変わっていないような気がするが、今回も社長に何らかの対応をするのか。また、昨年と比較して、これまで東京電力に伝えてきたことが生かされているか伺いたい。

市長：今回の事例をもって、社長に特別何かするつもりはありません。今回は、特重施設という限られたところから出てきているので、昨年とは違うと思っています。また、県外の方のことも含まれていますので、県外の保健所からその県の県庁、その県の県庁から新潟県、新潟県から柏崎市の保健所という連絡体制になっています。東京電力は、県外の保健所、その県の県庁、新潟県、柏崎市の保健所、柏崎市の5つに対応しなければならない事例もあり、連絡のタイムラグや行き違いが出てしまったのかもしれませんが、なるべくそのようなことがないようにお願いしたところです。

記者：昨年、市長が社長に伝えた所感の中で、行動歴がなかなか明らかにならないため、市がどのように対応していけばいいのか分からないという内容があった。今回、行動歴の開示は十分と思われるか。

市長：私どもが県を通して伺っている限りでは、柏崎保健所がしっかりと行動歴を把握していると承知しています。特重施設に関係する5人のうち3人が行政検査によって陽性が判明し、今回の市内50例目を含めた2人は市の要請によって東京電力が自主的に行った自主PCR検査で陽性が判明しました。県から指示された行政検査の対象者だけでなく、全員に検査を

してほしいという市の要請に応じていただいたところは評価しています。しかし、自主検査で陽性が判明したことや、前回のように、一度目の検査は陰性で再検査で陽性だったという事例もありますので、あらためて新型コロナウイルス感染症への対応の難しさを感じています。

記者：検体を持っていく際、緊張感に欠ける雰囲気があったという報告は石井所長からあったのか。

市長：違います。市の職員から私にそのような報告がありましたので、それを石井所長に伝えました。

記者：市長が東京電力に自主 PCR 検査を要請したのは、4月11日か。

市長：はい。特重施設で2人目の陽性者が出たときです。

記者：それまでは、東京電力は自主検査を行っていなかったのか。

市長：今回の事例以前に、サイト内の全員や特重施設の全員に PCR 検査を行ったということは、少なくとも私は承知していません。

記者：所長を市役所に呼んだというのは大きなことだと思うが、特に伝えたかったのは緊張感に欠ける雰囲気についてか。

市長：バックグラウンドとしては、福島処理水を巡る福島県内の雰囲気や原子力規制委員会から出された是正措置などを含めて、東京電力が非常に厳しい状況あるということです。その中で、特重施設から5人の新型コロナウイルス感染症の陽性者が出たので、さらに厳しい状況に立たされることが考えられます。私はそれを望まないということを含めて、石井所長にお伝えしたかったということです。

記者：市長は、規制委員会の東京電力に対する命令に関して昨日コメントを出されたが、その冒頭の「東京電力も規制委員会もそれぞれこの半年のプロセスには大きな課題があったと思う。資質が現れ、体制が明らかになった。」という部分について、補足して説明していた

だきたい。

市長：資質の部分は東京電力、体制の部分は規制庁、規制委員会を指しています。重ねて申し上げることになりますが、IDカード不正使用、核物質防護施設の課題、東京電力の認識と規制庁、規制委員会の求めているものに明らかな差があったことなどを考えると、甘いと言わざるを得ないような資質、報告が規制庁から規制委員会へなかなか上がらなかった体制などが明らかになったとご理解ください。

記者：特重施設の5人の陽性者のうち、3人は柏崎市で公表し、1人は埼玉の方と認識しているが、もう1人は本日発表された市外の方ということか。

市長：はい。